徳島新聞 2023年01月25日 水曜日 面名 徳島総合２ 第１版 24ページ

心臓リハビリ 遠隔支援

徳島大病院 伊勢医師ら 在宅向けシステム開発

徳島大病院循環器内科の伊勢孝之医師(44)が医療ベンチャー「サプリム」(東京)などと協力し、心臓病患者らのリハビリを自宅で行える遠隔支援システムを開発した。患者の脈拍や運動量などのデータを専用アプリを通してやりとりし、医療従事者が定期的に助言や相談を行う。リハビリに通えない患者の運動を促し、再発防止や症状の改善を図る。サプリムが昨年7月からサービスの提供を始めた。

伊勢孝之医師

心臓や血管の病気を発症した患者が、サプリムの心臓リハビリ指導士が作成した計画に基づいて自宅でリハビリを行う。新システムでは、専用のスマートウオッチを身に着けて運動することで脈拍や歩数などのデータを計測し、オンラインでつながったスマートフォンのアプリを介してサプリムの指導士らに送る仕組み。

指導士はアプリを通し、1週間ごとにデータを分析して助言したり、計画を見直したりするほか、運動メニューを動画で送ることもできる。健康への不安や病気についての相談も受け付ける。

心臓のリハビリを自宅で受けるための機材やシステム

徳島大病院によると、病気を発症後にリハビリを継続的に行うことで心臓機能や体力の回復を図れる。しかし、仕事や通院距離などを理由に医療機関で外来リハビリを受けない人が多く、全国の通院率は7%。リハビリは集団で行うため、新型コロナウイルス感染対策で手控える患者もいる。

伊勢医師は2011年度から同病院で心臓のリハビリに携わる。患者が自宅でリハビリに取り組める仕組みを構築しようと、システム開発を計画。21年秋から約1年間、全国の医療機関と連携して患者約40人に試作のシステムを使ってリハビリに取り組んでもらい、改良を重ねた。

伊勢医師は「心臓のリハビリを行えば、病気の再発防止や体力の回復を図れることを知ってほしい。システムをより充実できるよう、今後も共同研究を続けたい」と話している。

システムの利用は有料で、サプリムや全国の医療機関から申し込める。

(南志郎)

(C)徳島新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。